

第 2 学 年 算 数 科 学 習 指 導 案

平成 2 9 年 6 月 2 1 日 (水)

場 所 2 年 1 組 教 室 5 時 限 目

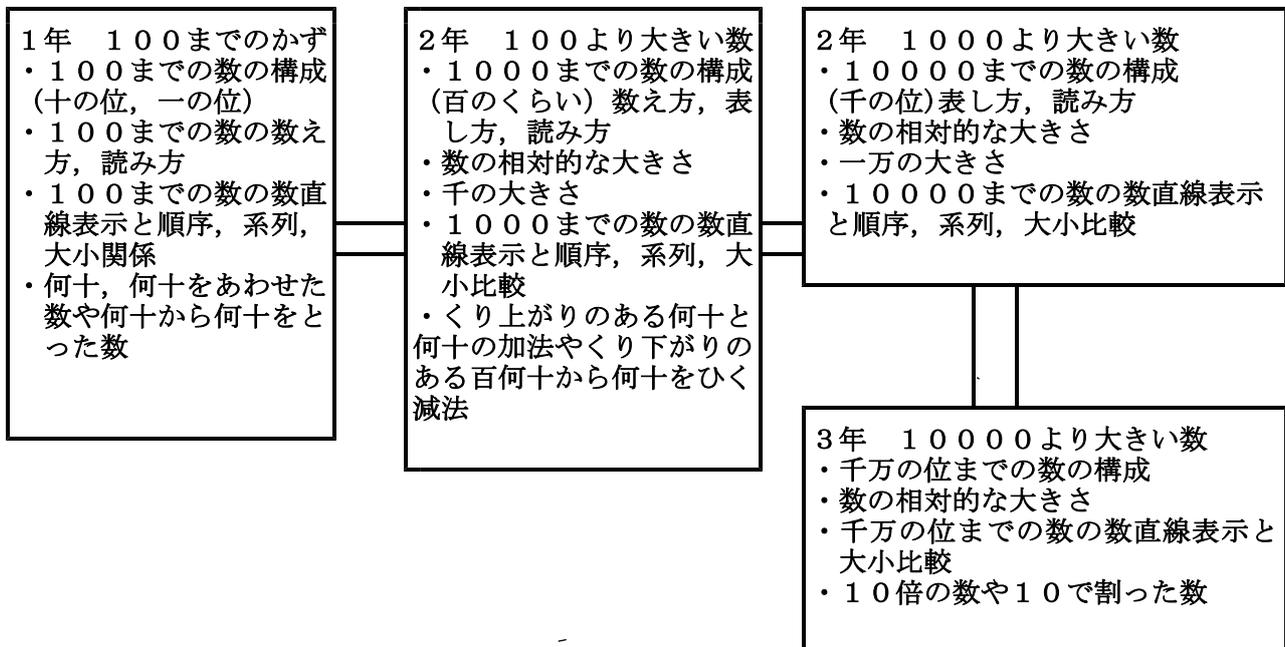
授 業 者 井 深 雅 彦 (T 1) 日 下 部 凜 (T 2)

1. 単元名 「100より大きい数」

2. 単元目標

- (1) 1000までの数の構成, 表し方, 読み方の理解におよくをもち, 進んで用いようとする。
- (2) 1000未満の数の構成, 表し方, 読み方を知り, 十進位取り数法による数の表し方を理解する。
- (3) 1000未満の数の相対的な大きさについて理解する。
- (4) 1000という数の大きさ, 表し方, 読み方について理解する。
- (5) 100までの数の数直線上に表したり, 数直線上に表された数を読み取ったりすることができる。
- (6) 1000までの数について, 大小の比べ方を理解し, 大小比較ができる。
- (7) 何十そうしの加法で, くり上がりのある計算や百何十から何十を引く減法でくり上がりのある計算ができる。

3. 内容の前後関係



4. 指導の立場

(1) 単元について (教材観)

本単元の構成と学習指導要領との関連は, 次のようになっている。

- 1, 数の表し方
- 2, 千
- 3, たし算とひき算
 - < A (1) > 数の意味や表し方について理解し, 数を用いる能力を伸ばす。
 - ア: 同じ大きさのあつまりにまとめて数えたり, 分類して数えたりすること。
 - イ: 4位数までについて, 十進位取り記数法による数の表し方及び数の大小や順序について理解すること。
 - ウ: 数を, 十を単位として見たり, 百を単位として見たりするなど, 数の相対的な大きさについて理解すること。

児童は1学年で100までの数を対象にして学習してきている。本単元では数の範囲をさらに1000まで拡張していく。数を拡張しながら十進位取り記数法による数の表し方、読み方及び数の順序、系列、大小など数について理解を一層深めることをねらいとしている。また、10や100などを単位として、何百何十、何百、あるいは1000という数の大きさをとらえるなど、数を相対的に見ることによって、数のしくみや加法や減法について理解を深めるとともに、数についての感覚を豊かにしていく。

本時では「10のまとまりが10あつまると100になる。」という既習事項をもとにして、何百何十の中に10のまとまりは、いくつあるのかを考える内容である。児童は、本時の前に10のまとまりが10以上集まった場合の数の表し方を学習している。この前時の学習を想起させ、課題を解決していく為には有効な算数的活動を取り入れ、児童の考えの手助けとしていきたい。

(2) 児童の実態

男子13名、女子11名の計24名で構成されている。男子が多いこともあり全体的に男子が落ち着かない状況が見られる時期もあったが、落ち着いて取り組めるようになってきている。女子は、静かな児童が多い。4月当初から、じっとしている事が苦手な児童が多く、授業に対する意欲は低く、騒がしい状況があった。そのため、授業に集中できず、授業内容を理解できない児童も多く、教師の援助を必要とする児童も少なくなかった。

5月の算数アンケート調査の結果では、算数への意欲・関心が低く、算数の学習に対して、算数が「分からない」ことから、楽しくないと答えた児童が3人いる。また、「好きではない。」と答えている児童が6人いる。さらに、友達のことを聞いたり、自分の考えを話したりすることが嫌い、苦手という学ぶ意欲の低い児童もいた。この調査の結果を受けて、5月のアンケート後、また、6月復帰後は、自分の考えを話すことや書くことに力を入れてきた。近頃では、少しずつみんなの前で話したり、自分の考えをノートに書いたりできる児童が増えてきている。今後も、根気強く指導を続けることで各自の力になるようにしたいと考えている。

<5月算数アンケート実施結果>

	◎	○	△		◎	○	△
①算数は好きか。	16	2	6	⑤友達の話聞く。	19	3	2
②算数は楽しいか。	14	7	3	⑥自分の考えを話す。	8	10	6
③課題に向かって取り組む。	15	3	6	⑦学習が分かる。	20	1	3
④考えを持つ。	15	6	2				

6月に取ったアンケートの結果では、下記のようになっており、5月とは少し算数への意欲が高まってきている。

<6月算数アンケート実施結果>

	◎	○	△		◎	○	△
①算数は好きか。	10	10	4	⑤友達の話聞く。	18	6	0
②算数は楽しいか。	12	7	5	⑥自分の考えを話す。	14	8	2
③課題に向かって取り組む。	8	16	0	⑦学習が分かる。	18	6	0
④考えを持つ。	16	8	0				

5月に比べ好きとか楽しいの◎の人数が減っていますが、考えを持つ、友だちの話聞く、自分の考えを話すなどの項目では、◎がほぼ同じ人数であったり、△の人数がゼロもしくは減少していることから考えると算数への関心は高まってきていると考える。また、5月の段階の好き、楽しいは学級の雰囲気のことではないか考えられる。現在は、学習内容への関心が高まってきているのではないかと考える。今後自分の考えを伝えられることが好きな児童の数を増やしていきたいと考えている。算数が好きになってきている理由に交流の時間やまとめの時間に少しずつ自分の考えが話せたり自分の言葉でまとめが書けるようになってきたことが算数が楽しくなってきた要因であると考えている。また、アンケートの結果から、話をよく聞いて取り組んだら、算数が分かるようになってきた。だから、楽しくなったと答えた児童が何人かいる。このことは、今後に期待が持てる大切な結果であると受け止めていきたい。このような結果を得るために5月、6月に取り組んだことの中に全体交流の場面において、話形（はじめに、つぎに、さいごに、だから）を教えた。さらに、確認の意味で自分のこれから話す順序（最初に何をそろえるのでしたね。など）の確認をするようにした。一つのパターンを教え込むことで安心して発表できるようになってきたことで自分の考えを話せると答えた児童が児童が増えたと考える。それが、分かる、できる、楽しい授業へのつながるように丁寧に進めて行きたいと思っている。本時は、ペア交流を有効に使い、全体交流で「分かった」と言える児童を少しでも増やすようにしたいと考えている。そのために前時との問題の違いに着目し、課題作りの段階から集中して取り組めるように配慮し、問題解決の場面では、支援を必要とする児童にT1を、進んで学習に取り組める児童にT2を配置し、問題解決やペア交流がうまく進められるように配慮したい。

5, 研究とのかかわり

(1) 研究主題

自分の考えを持ち、学び合い高め合う児童の育成
～対話をキーワードとした算数科の授業を通して～

(2) 研究内容

- ①教材と向き合い、既習内容と比較し、自分の考えをもつことができたか
- ②仲間と共に考えを練り合い、自分の考えを高めることができたか
- ③学習内容を確実に理解し、自分の考えを深めることはできたか

(3) テーマとの関わり

①教材と向き合い、既習内容と比較し、自分の考えをもつことができたか

ア 課題を引き出すための指導援助

- ・問題を提示し、前時までの違いをもとに課題作りを進める。
教師が問い返しをしながら課題を作り出す。

課題作りのために→

前時と似ているところ・前時と違うところを中心に課題作りをする。
困ったことがあれば、出させる。

イ 個に応じた指導援助の工夫

- ・半具体物（全員に持たせる）を使うことでより具体的に考えがまとめられるように支援する。
また、前時までの学習の過程が分かるように毎時間の学習のまとめを前面に掲示し、掲示を参考に自分の考えがまとめられるように配慮する。指導支援を必要とする児童は、指導支援の効率を図るためにあらかじめ机列を机が近くになるように配慮した。特に、支援を必要とする児童には、半具体物の操作を中心に課題解決に迫れるように援助したい。T 1を援助を必要とする児童に、T 2をペア交流ができる児童の見届けと交流の仕方への支援と T 1, T 2の役割分担をはっきりさせた。

②仲間と共に考えを練り合い、自分の考えを高めることができたか

ア 仲間と高め合う交流活動の工夫

- ・本時は、自分の考えをもつ段階で、半具体物の操作を全員にさせる。
さらに、視覚的な半具体物を操作する活動から、発展して＜200は10のかたまりが20こ集まったもの＞というような言葉によるまとめへ発展させたい。そのためには、（100は10のかたまりが10集まったもの）という考え方をヒントにしながら、今まで話形や発表の順序を意識したまとめ方にこだわってきたが、本時は、書く時間を減らし、ペア交流やグループ交流の時間の確保に努め、十分自分の考えや友達のことを交流し合えるようにする。そして、少しでも理解が深まるようにしたい。全体交流では、各自の考え方を気軽に発表できる雰囲気作りに配慮したい。また、発表については内容が似ていたり、同じような考え方の発表に終始することになってもいいので、ある程度、堂々と発表できる児童に意図的指名をする。そのことで、本時のまとめを少しでも多くの児童が自分の言葉でまとめられるにしたい。

③学習内容を確実に理解し、自分の考えを深めることはできたか

ア 本時の学習の理解度を振り返る場の工夫

- ・評価問題を行い、本時が理解できた段階で、本時の授業で分かったことを自分の言葉でまとめたり、さらに余裕のある児童は、パワーアップ問題でさらにつけた力を確かめたりするようにする。

7. 本時のねらい

100は、10が10個であることを生かし位取り板を使う活動を通して、200が10のいくつ分であるかに気づき、250は、10を25こ集めた数にとらえることができる。

8. 本時の展開 (6/14)

	ねらい	学習活動	評価規準・指導援助									
つかむ考え	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習内容を知ることができる。 課題をつかむことができる。 自分なりの考えをもつことができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 本時の問題の意味をとらえる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">250は、10をいくつあつめた数でしょう。</div> 本時の課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">何百何十は、10をいくつあつめた数か、そのあらわしかた考えよう。</div> 個人追究をする。 <ul style="list-style-type: none"> ⑩、⑩⑩の磁石玉を位取り板で操作して考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 折り紙を準備し、問題の意味が具体的にとらえられるようにする。 問題を見て、前時とちがうところや新しく知りたいことを見つけさせ、それを課題とするようにする。 									
深める	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを仲間とわかりやすく話すことができる。 自分の考えを発表することができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 個人追究したことをもとにペア交流をする。 お互いの考えを全体で交流する。 ① 100 2こを 10 20こに置きかえ、こたえが25こになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 250は100をいくつと、10をいくつ合わせた数か考えさせる。 算数コーナーにある前時までの学習を思い起こさせ、自分なりの操作や方法で考えることができるようにする。 									
まとめ	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <table style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>100</td> <td>100</td> <td>⑩⑩⑩⑩⑩⑩</td> </tr> <tr> <td>⑩⑩⑩⑩⑩⑩</td> <td>⑩⑩⑩⑩⑩⑩</td> <td>⑩⑩⑩⑩⑩⑩</td> </tr> <tr> <td>⑩⑩⑩⑩⑩⑩</td> <td>⑩⑩⑩⑩⑩⑩</td> <td></td> </tr> </table> </div> <p>② 250を10のあつまりを一つとしてかんがえると、</p>	100	100	⑩⑩⑩⑩⑩⑩	⑩⑩⑩⑩⑩⑩	⑩⑩⑩⑩⑩⑩	⑩⑩⑩⑩⑩⑩	⑩⑩⑩⑩⑩⑩	⑩⑩⑩⑩⑩⑩		<ol style="list-style-type: none"> 個人追究したことをもとにペア交流をする。 お互いの考えを全体で交流する。 ① 100 2こを 10 20こに置きかえ、こたえが25こになる。 	<p>T 2: ペア交流がスムーズに進められるように支援する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">自分なりの方法で、10のあつまりを単位として、数の構成を考えている。 (考え方)</div>
100	100	⑩⑩⑩⑩⑩⑩										
⑩⑩⑩⑩⑩⑩	⑩⑩⑩⑩⑩⑩	⑩⑩⑩⑩⑩⑩										
⑩⑩⑩⑩⑩⑩	⑩⑩⑩⑩⑩⑩											
振り返る	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習をまとめることができる。 たしかめ問題を考える。 本時の学習を振り返ることができる。 パワーアップ問題を考える。 	<ol style="list-style-type: none"> 学習のまとめをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">250は、10が20こ。50は、10が5こ。あわせて10が、25こ。何百何十にわけてかんがえればよい。</div> 交流した考えを使って評価問題を解く。 (1) 370 自己評価をする。 パワーアップ問題を解く。 (1) 550 (2) 990 (時間が無ければ割愛する。) 	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">何百何十を、10のいくつぶんというようにとらえている。 (知識・理解)</div> <ul style="list-style-type: none"> 自分の言葉でまとめを書く。 練習でつまづいている子に対し、⑩を使って考えるようにする。 自己評価する。 早くできた子には、パワーアップ問題を準備する。 									